

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●鈴木孝志調教師がJRA通算300勝を達成

6月20日(土)の3回阪神5日・第3レースではマクノスが1着となり、同馬を管理する鈴木孝志調教師(栗東)は、現役70人目となるJRA通算300勝(延べ4341頭目)を達成しました。

●野中賢二調教師がJRA通算400勝を達成

6月20日(土)の1回函館3日・第4レースではミリオンアップが1着となり、同馬を管理する野中賢二調教師(栗東)は、現役37人目となるJRA通算400勝(延べ4063頭目)を達成しました。

●ロンジンワールドベストレースホースランキング

国際競馬統括機関連盟(IFHA)から恒例の「ロンジンワールドベストレースホースランキング」が発表されました(2026年1月1日から6月7日までに実施された世界の主要レースが対象/単位はポンド)。4月のチェアマンズスプリントプライズをレコードタイムで連覇し、連勝を20へと伸ばした香港のカーインライジング(130)がランキングトップをキープ。日本調教馬は6頭が掲載され、フォーエバーヤングが第10位(123)、クロワデュノールとマスカレードボールが第11位タイ(122)、ディープモンスター、メイショウタバル、テオオーエルビスが第20位タイ(120)となっています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●さきたま杯(浦和)でロードフォンスがウィルソンテソーロを下す

さきたま杯(JpnI、6月24日、浦和、1,400m)は、3番手を追走した2番人気のロードフォンス(横山和生騎手、牡6歳、父ロードカナロア)が直線半ばで抜け出し、後方から追いつけた単勝1.8倍で断然人気のウィルソンテソーロに1馬身半差を付けてJpnI初制覇。ママコチャは5着、逃げた昨年の覇者シャマルは9着、3番人気のヤマニンチェルキは10着に敗れています。

●北海優駿(門別)はゴッドバロック【各地の主要3歳重賞】

北海優駿(6月11日、門別、2,000m)は、3番手から4コーナー手前で抜け出したゴッドバロック(牡、父シルバーステート)が2馬身差で完勝、単勝1.4倍の支持に应运えて北斗盃に次ぐ北海道二冠を達成しました。石川優駿(6月9日、金沢、2,000m)は、中団から直線入口で内を突いて先頭に立った2番人気の北海道からの転入馬グリーゼ(牝、父マテラスカイ)が後続を8馬身引き離し、こちらも北日本新聞杯からの連勝で金沢二冠馬となっています。

●7月1日の帝王賞(大井)で連覇を目指すミッキーファイト

帝王賞(JpnI、7月1日、大井、2,000m)は、昨年の覇者ミッキーファイトが中心、以下カゼノランナー、アウトレンジ、ロードクロノス、ラムジェット、ディクテオン(大井)、サントノーレ(大井)、カズタンジャー、ナチュラルライズの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ロイヤルアスコット開催～サトノレーヴはハナ差の2着

イギリス王室が主催するロイヤルアスコット開催がアスコット競馬場で現地6月16日～20日の5日間にわたって行われました。20日に行われたG1クイーンエリザベスII世ジュビリーS(4歳上、芝1,200m)には日本から2頭が参戦。昨年半馬身差の2着だったサトノレーヴは今年も優勝争いに加わりましたが、T.マーカンド騎手が手綱を取ったアルメラク(牡4歳、父ダークエンジェル、W.ハガス厩舎)にハナ差及ばずの2着に終わり、日本調教馬によるロイヤルアスコット開催初勝利とはなりませんでしたが(もう1頭のルガルは8着)。勝ったアルメラクは昨年9月のギャロウビーS(リステッド)で不利を受けた際に転倒して競走中止。復帰戦となった今年5月のカテドラルS(リステッド、芝1,200m)をクビ差で制してここに臨んでいました。

なお、G1クイーンエリザベスII世ジュビリーSと並んでロイヤルアスコット開催の最高賞金(総賞金100万ポンド=約2億1500万円/1ポンド=215円で換算)を誇るG1プリンスオブウェールズS(17日、4歳上、芝1,990m)はW.ピュイック騎手が手綱を取ったオンブズマン(牡5歳、父ナイトオブサンダー、J&T.ゴスデン厩舎)が8頭立ての後方2番手追走から直線で抜群の末脚を繰り出すと、昨年の英オークス馬ミニーホークに4馬身差をつけて優勝。2000年のG1昇格以降では初となるこのレース連覇を果たしました。